

学力格差を考える

第2章1(5)教育格差と貧困の連鎖 5(1)確かな学力の育成

平成26年10月2日(木)0930～
三重県教育改革推進会議

○この資料は、下記に基づいて作成しました。

文部科学省委託研究『平成25年度 全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)

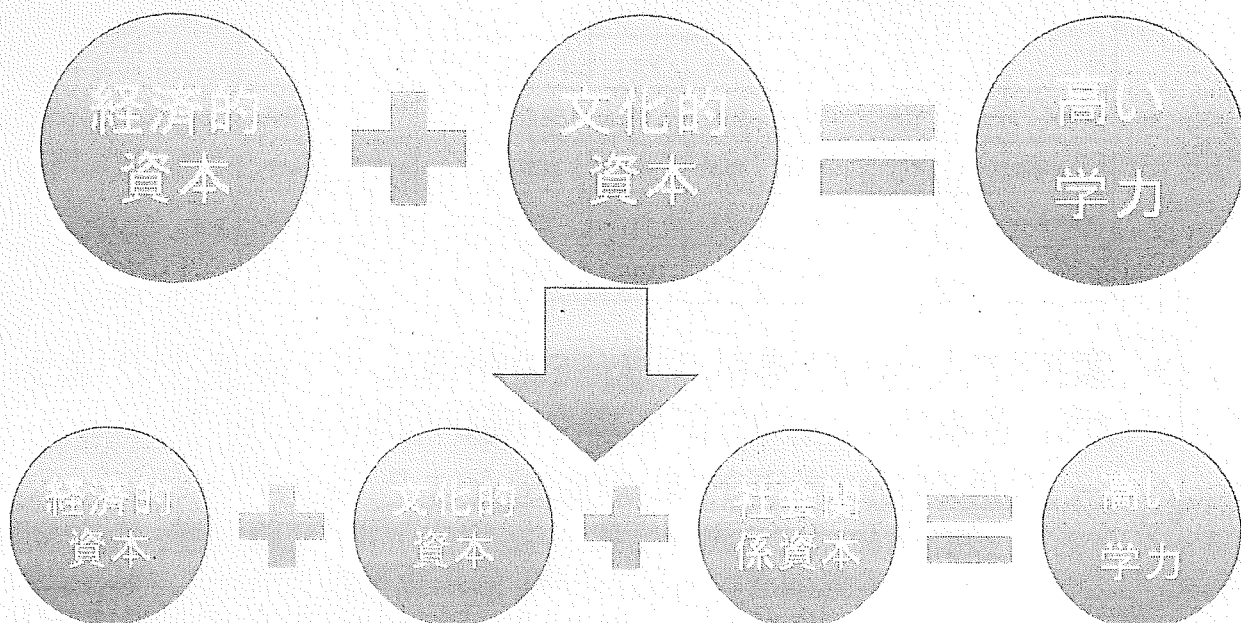
の結果を活用した 学力に影響を与える要因分析に関する 調査研究』(国立大学法人お茶の水女子大学)

http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/kannren_chousa/pdf/hogosha_factorial_experiment.pdf

国立大学法人お茶の水女子大学 理事・副学長(教授) 耳塚寛明

1

Q1 家庭・地域環境はなぜ子どもの 学力に影響するのか(理論)?



社会関係資本: 人的ネットワークに埋め込まれている、子どもを見守り、
ケアし、育てていく上で活用できる手段の総体

2

Q2 家庭環境による学力格差の実態は？

文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」から

○本研究は、平成25年度全国学力・学習状況調査の追加調査として実施した「保護者に対する調査」の結果等を活用し、家庭状況と学力の関係、不利な環境にも関わらず成果を上げている学校や児童生徒の取組を分析するものである。

○保護者に対する調査の結果を用い、家庭状況と学力の関係をナショナル・サンプルによって分析した研究は、文部科学省として初。

* 文部科学省の委託により国立大学法人お茶の水女子大学(代表:耳塚寛明 理事・副学長(教授))が分析

| | 保護者 | | (参考)学校 | |
|-----|--------|---------------|--------|------------|
| | 対象数 | 有効回答数(率)* | 対象数 | 有効回答数(率)* |
| 小学校 | 16,308 | 14,383(85.1%) | 429 | 391(91.1%) |
| 中学校 | 30,054 | 25,598(85.2%) | 410 | 387(94.4%) |

<保護者に対する追加調査の概要>

調査時期：平成25年5月下旬～6月下旬

調査内容：子供への接し方、子供の教育に対する考え方、教育費等

3

家庭の社会経済的背景(SES)と児童生徒の学力の関係

| | 小6 | | | | 中3 | | | |
|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
| Lowest | 53.9 | 39.9 | 68.6 | 47.7 | 70.7 | 59.8 | 54.4 | 31.5 |
| Lower Middle | 60.1 | 46.1 | 75.2 | 55.1 | 75.2 | 66.0 | 62.0 | 38.8 |
| Upper Middle | 63.9 | 51.4 | 79.2 | 60.3 | 78.6 | 70.3 | 67.5 | 44.9 |
| Highest | 72.7 | 60.0 | 85.4 | 70.3 | 83.6 | 76.7 | 75.5 | 55.4 |

● 家庭の社会経済的背景(SES)が高い児童生徒のほうが、各教科の平均正答率が高い傾向

－ 家庭の社会経済的背景(SES)とは？

- 保護者に対する調査結果から、家庭所得、父親学歴、母親学歴の三つの変数を合成した指標。当該指標を四等分し、Highest SES、Upper middle SES、Lower middle SES、Lowest SESに分割して分析

4

保護者の意識や関与と児童生徒の学力

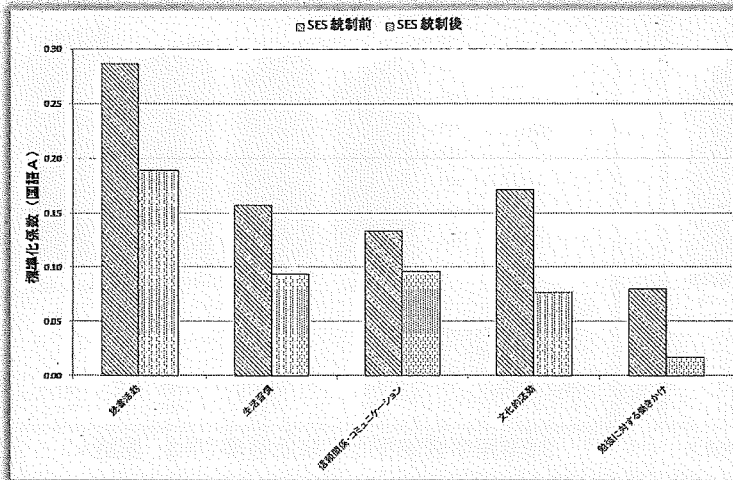
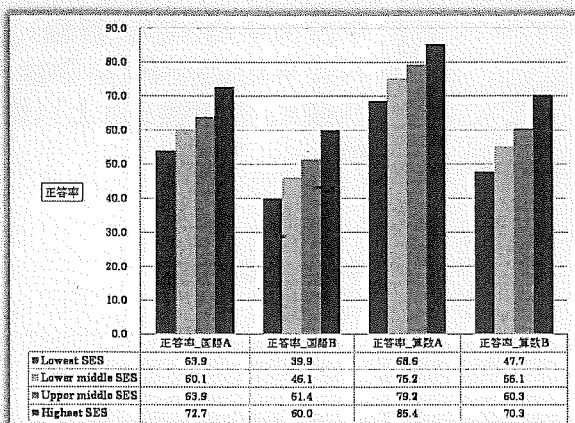


図 保護者の関与と学力(国語A)の関連(小6)

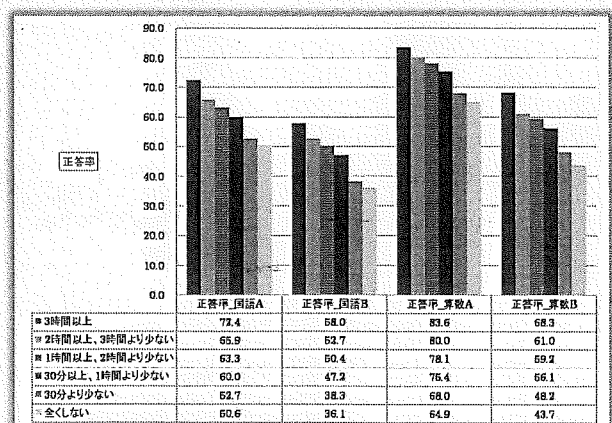
数値は、重回帰分析による β 。数値が大きいほど学力と関連。SES統制後に数値が小さくなる項目はSES統制前の数値が見かけ上の関連を示していたことを表す

- 家庭における読書活動、生活習慣に関する働きかけ、親子間のコミュニケーション、親子で行う文化的活動は、いずれも学力にプラスの影響力。とくに家庭における読書活動が子どもの学力に最も強い影響力を及ぼす。その影響力は中学校に比べ小学校で大きい
- 上記の保護者の行動・関わり方はいずれもSESを統制すると学力への影響力が小さくなる。ただし読書活動の影響力はなお残る

Q3 子どもの家庭での学習時間は学力に影響するか？



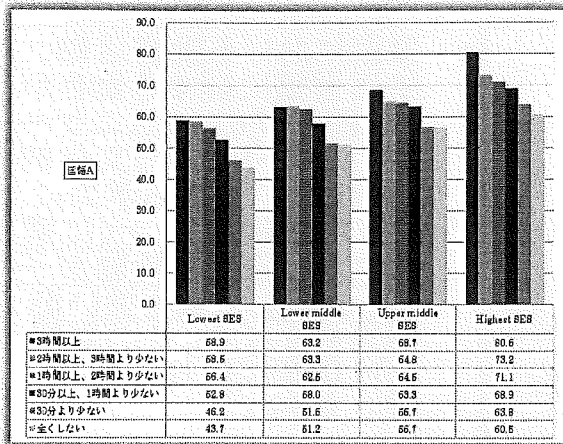
SESと各正答率(小6)



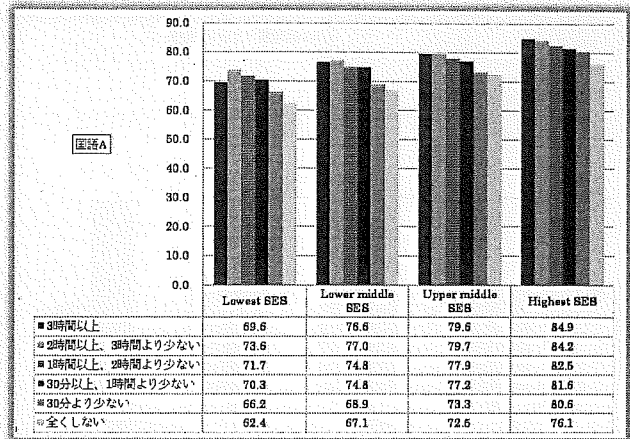
平日の学習時間と各正答率(小6)

- 学力は児童生徒の社会経済的背景および学習時間の量によって規定される。SESが高いほど、また学習時間が長い多いほど学力が高い

学習時間の効果(続き)



SES別学習時間と平均正答率(小6、国語A)

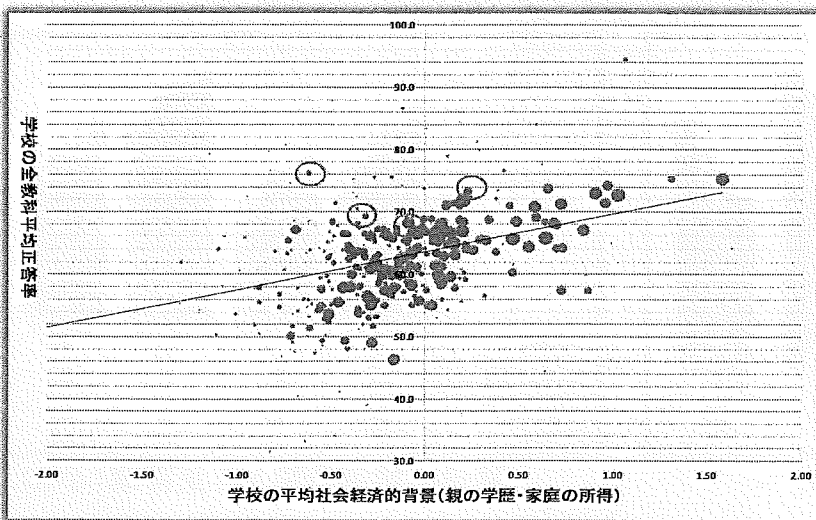


SES別学習時間と平均正答率(中3、国語A)

- しかし学習時間の効果は限定的。社会経済的背景がLowest SESの児童生徒が「3時間以上」勉強して獲得する学力の平均値は、Highest SESで「全く勉強しない」児童生徒の学力の平均値よりも低い

7

Q4 SESから統計的に予測される学力を上回る「高い成果を上げている学校」はあるか？(小学校)



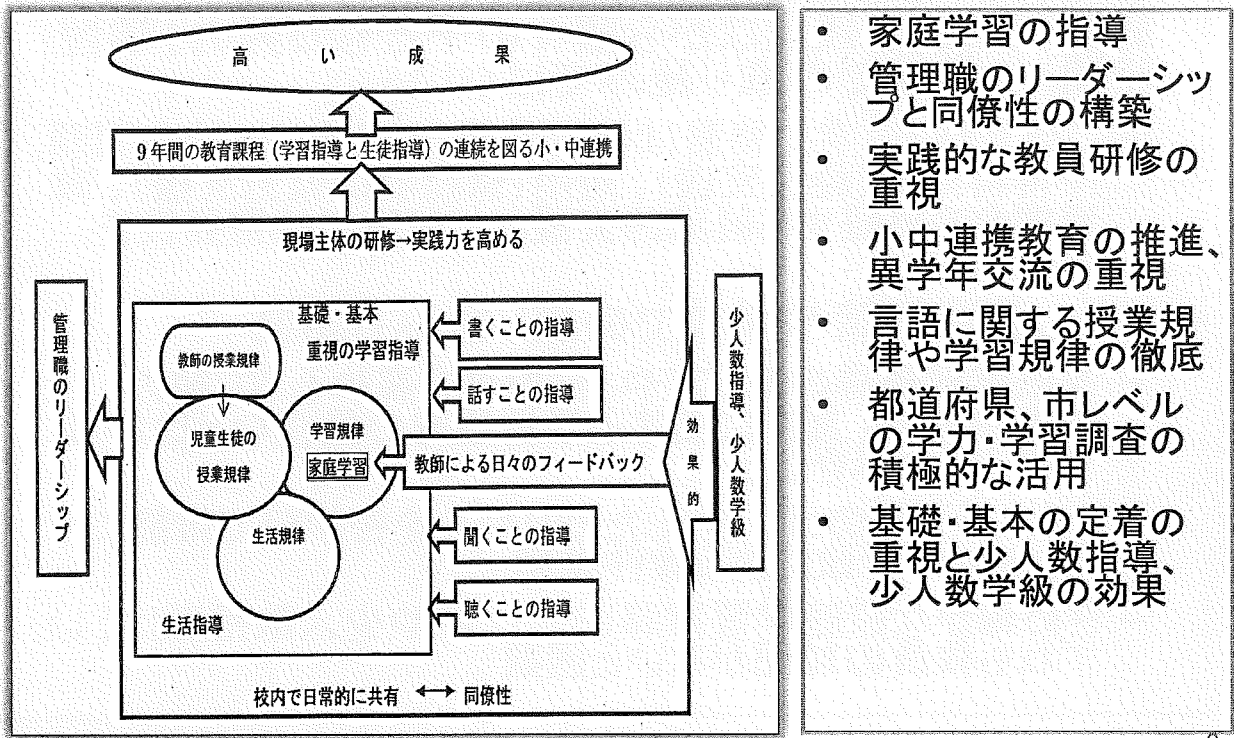
学校の平均SES(横軸)と教科の平均正答率(小学校、算数A、学級数2以上)(縦軸)

赤丸が訪問調査対象校

- 「高い成果を上げている学校」とは、同程度の社会経済的背景の児童生徒が通う学校と比較して、学校の(平均)学力が高い学校

8

Q5 「高い成果を上げている学校」にはどんな特徴があったか？



- 家庭学習の指導
- 管理職のリーダーシップと同僚性の構築
- 実践的な教員研修の重視
- 小中連携教育の推進、異学年交流の重視
- 言語に関する授業規律や学習規律の徹底
- 都道府県、市レベルの学力・学習調査の積極的な活用
- 基礎・基本の定着の重視と少人数指導、少人数学級の効果

9

「高い成果を上げている学校」の特徴 下記のような特徴を分析・発見するのも行政の重要な仕事

家庭学習指導

- 宿題+自主学習(自学、自勉...) 自分の関心に沿った学習と、弱点を自分で発見し補充
- 小学校ではとくにいい指導
- させっぱなしではない、必ず読み、手を入れ、子どもに返す
- 教員の負担が課題

管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修

- 教科をこえた研究授業 見せ合い→同僚性
- 学校内、学校外に授業を見に行く。県内外に関わらず研修に出かける → 旅費の確保が課題

小中連携教育

- 児童生徒の交流ではなく、教育課程や学習習慣などの面で、小中が連携し、系統性を持った指導を図る形が重要
- とくに中学校で成果

言語に関する授業規律や学習規律の徹底

- 書くこと、話すこと、聞くことを大切に
- ノート指導
- 言葉は、すべての教科の基盤

学力調査の活用

- 学校の課題を明確する際に活用

基礎基本の定着の重視と、少人数指導、少人数学級の効果

- 発展的な学習よりも、基礎基本の定着のほうを重視
- ITや少人数指導を、全校が支持

まとめ

- 学力をもっとも規定する要因は、家庭の社会経済的背景 (SES)。残念ながら個々の子どもの努力 (学習時間) や学校での取り組みではない。
 - この意味で、学力格差は教育問題というよりは社会問題。所得再分配 (経済支援)、雇用 (保護者の就労支援)、教育機会を保証する経済的支援などが決定的重要性を持っている
- しかし教育施策や学校での取り組みも効果
 - 家庭学習指導のあり方や、同僚性を高める取り組み、小中連携教育、言語に関する学習規律の重視などは学校で取り組むべきこと
 - とくに重要なのは、そうした取り組みを各学校で可能にするための、行政による条件整備
 - きめ細かな家庭学習指導 (チェック) や少人数指導は、いずれも教員の加配がないと困難